



政治専攻「演習Ⅰ・Ⅱ」

第2次募集



【目次】

1. 募集について
2. 募集に関する注意事項
3. 選考方法
4. ゼミ内容

➤ 小原 薫 先生	4 頁	➤
➤ 菊田 真司 先生	5 頁	➤
➤ 坂本 一登 先生	6 頁	➤
➤ 藤嶋 亮 先生	7 頁	➤
➤ 山本 健太郎 先生	8 頁	➤
➤ 上神 貴佳 先生	9 頁	➤
➤ 濱村 仁 先生	10 頁	➤
➤ 山口 順平 先生	11 頁	➤
➤		➤

[【目次に戻る】](#)

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 次 募 集
終了しました。

※第Ⅱ第2次募集の実施は第Ⅱ期第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2026 年 1 月 5 日（月）12 時～1 月 10 日（土）12 時 50 分
選 考 期 間	2026 年 1 月 13 日（火）～1 月 19 日（月）
合 否 発 表	2026 年 1 月 21 日（水）20 時予定 / K-SMAPYⅡにて

【応募方法】

K-SMAPYⅡ より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYⅡからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYⅡからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

2. 募集に関する注意事項

※必ず、別紙「政治専攻「演習」第2期第1次募集について(現1・2年生向け)」および「政治専攻「演習Ⅱ」第2期第1次募集について(現3年生向け)」もよく読んで応募してください。

- (ア) 応募期間に必ず応募してください。応募期間外の実験は認められません。
- (イ) K-SMAPYⅡからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYⅡから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (オ) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。
- (カ) 各教員の連絡先に関する問い合わせにはお答えできません。
- (キ) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますのでご注意ください。

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
稲垣 浩	募 集 無 し					
小原 薫	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	現在当該ゼミを履修中の現3年生のみが応募することができ、レポート及び面接の課題は免除されます。				
菊田 真司	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	面接時持参		自己紹介とゼミの志望理由	(書式)A4 (字数)1,000字程度
		面接	1月16日(金)12：10～12：40		若木タワー7階 0712 研究室	
坂本 一登	・現2年生 ・現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp	志望理由 最近関心を持っている政治的事件	(書式)自由 (字数)1,000字程度
			締切日時	1月10日(土)12：50		
		面接	1月15日(木)16：15～17：00		若木タワー7階 0705 研究室	
芝崎 祐典	募 集 無 し					
羅 芝賢	募 集 無 し					
藤嶋 亮	・現在当該ゼミ履修中の現3年生	現在当該ゼミを履修中の現3年生のみが応募することができ、レポート及び面接の課題は免除されます。				
山本 健太郎	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp	ゼミを志望する理由	(書式) 自由 (字数) 800字
			締切日時	1月10日(土)12：50		
上神 貴佳	・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケートで回答	本演習を志望する理由	(書式) 自由 (字数) 1000字
			締切日時	1月10日(土)12：50		
濱村 仁	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 j-hamamura@g.ecc.u-tokyo.ac.jp	志望理由、関心のある国際問題、ゼミに期待すること	(書式) WordないしPDF (字数) 自由
			締切日時	1月10日(月)12：50		
		面接	1月13日 (火) 13：30～16：30		オンラインにて	
山口 順平	【法律専攻】 現在当該ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 yamaguchijunpei.kokugakuin@gmail.com	あなたが最も興味・関心をもつ現代政治の問題 (演習論文のテーマに設定したい問題)	(書式) Word (字数) 1600字
	締切日時		1月12日(月)15：00			
	【政治専攻】 現在当該ゼミ履修中の現3年生 他3年生 (若干)	面接	1月15日 (木) 14：30～16：00		3303教室	

[【目次に戻る】](#)

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)
[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本を取り巻く政治と思想について考える
演習内容	<p>今、我々を取り巻く政治、社会の状況は大きな転機を迎えている。安全保障、日米関係、外国人問題も、大きな論点となっている。その中で、我々は何を選択するのか。戦後81年を迎える2026年は、今の日本を取り巻く政治、社会の問題について、その背景の思想を含めて議論をしていく。</p> <p>前期は、岩波新書を中心に講読し、討論を行う。後期は、それぞれが関心のあるテーマについて調査し、中間発表を行い、最終的にレポートにまとめることを目指す。</p> <p>レポート作成のために、合宿を行うこともあるので、課外の活動にも関心のある学生の参加を求める。</p>
教科書	指定しない
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	荏田 真司
演習テーマ	AI と民主主義
演習内容	<p>2022年11月のChatGPTの公開以後、生成AIは急速な発展を遂げつつあり、既に情報収集の重要な手段になると同時に、さまざまな判断の補助として重要なパートナーになっています。</p> <p>それでは、このAI時代における政治とはどのようなものになるのでしょうか？日本でもAIを政治の場で有効活用する「デジタル民主主義」の動きが始まっていますが。テクノロジーがもたらす未来を悲観的にとらえるか、民主主義をバージョンアップするための重要な手段としてとらえるかで、その評価は大きく分かれています。</p> <p>この演習では、具体的な「デジタル民主主義」の方法とその背景にある基本的な概念を再検討し、AI時代の民主主義について、広い視野から考えてみたいと思います。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。また、演習参加者には、自分で決めたテーマについての論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。</p> <p>選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>李 舜志、『テクノ専制とコモンへの道 民主主義の未来をひらく多元技術 PLURALITY とは?』、集英社新書、2025年</p> <p>橘 玲、『テクノ・リバタリアン 世界を変える唯一の思想』、文春新書、2024年、など</p>
参考文献	<p>オードリー・タン、E・グレン・ワイル、『PLURALITY 対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来』、2025年</p> <p>ヤニス・バルファキス、『テクノ封建制 デジタル空間の領主たちが私たち農奴を支配する とんでもなく醜くて、不公平な経済の話。』、集英社、2025年、など</p>
備考	<p>・面接日に都合が悪い等の連絡や、演習内容についての質問は、karita@kokugakuin.ac.jp までメールで送ってください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	戦前の政党と議会政治
演習内容	<p>2024年は、選挙の年であった。1月の台湾総統選挙をはじめとして、韓国、インド、英国、フランス、イランと続き、11月には米国大統領選挙がある。選挙は、各国の政治を大きく変貌させ、新たな政治の動きが始まっている。日本においても、自民党および立憲民主党の新リーダーを選ぶ選挙が続き、新たな政党政治および議会政治が模索されている。こうした状況に鑑み、来年度は、戦前日本の政党政治および議会政治の歴史をふり返し、日本政治の将来を考察することを狙いとする。現代においても、2009年政権交代が実現し、民主党政権が誕生した時、日本における二大政党制の可能性が、しきりに論じられた。それから、15年、二大政党制確立の可能性は遠のいたように見える。それでは、戦前の日本では、約8年間とはいえ、なぜ政党内閣の時代が誕生し、なぜそれが崩壊したのか、その経緯を考察することは、今後の日本の政治を考える示唆を与えてくれるかもしれない。まず昭和戦前期の政党や議会史を概観するところからはじめ、21世紀の政治を念頭におきながら、政党政治の可能性や議会政治とは何かを考えていきたい。</p> <p>なお、演習は、前期は文献講読、後期は論文作成をおこなう。前期講読における報告と後期の小論文の完成は、単位取得のためには必須である。演習なので、全回出席が原則であり、無断欠席の場合は、除名することがあるので、留意すること。</p>
教科書	勝田龍夫：重臣たちの昭和史上下巻 文春文庫
参考文献	栗屋憲太郎：昭和の政党 岩波現代文庫 筒井清忠：昭和戦前期の政党政治 ちくま新書 小山俊樹：五・一五事件 中公新書 古川隆久：戦時議会 吉川弘文館
備考	面接時間が不都合な場合は、メール（kazutos@kokugakuin.ac.jp）にて相談すること。対応可能です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ヨーロッパ政治の変容
演習内容	<p>近年、EUの危機、難民・移民問題、新型コロナウイルス感染症のパンデミック、そして各国におけるポピュリズムの席巻など、ヨーロッパ政治の危機や変動が語られてきましたが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻により、文字通り激動の時期を迎えました。こうした状況だからこそ、どのような性格の危機なのか、実際にどのような変化が生じているのか、じっくりと見定める必要があると考えられます。以上のような問題関心から、ヨーロッパ政治の現在地について、歴史的視点や、日本を含めた他の先進民主主義国との比較を重視しながら、その「変容」を跡づけ・位置づけていきたいと思います。授業の進め方としては、前期はヨーロッパの政治・歴史をテーマとした新書・概説書、後期はヨーロッパ現代政治に関するやや専門的な文献を全員で読み進めます。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告を行います。また、初回の授業時に、各回の担当班を決定し、第2回目以降、発表と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。</p>
教科書	
参考文献	<p>イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ』（岩波書店、2018年）松尾秀哉他編『教養としてのヨーロッパ政治』（ミネルヴァ書房、2019年）、フィリップ・テア『東欧の体制転換と新自由主義：1989年以後のヨーロッパ』（みすず書房、2025年）など</p>
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	山本 健太郎
演習テーマ	Z世代と政治・社会
演習内容	<p>いわゆる「Z世代」の中心に位置する皆さんから見て、政治や社会の課題はどのように映っているのでしょうか。担当教員が専攻する日本政治においては、ソーシャル・メディアの存在感が大きくなるにしたがって、世代による「政治の見え方」が変わっているのではないかと考えられます。他方、これからますますZ世代が社会の中心に躍り出るにつれて、社会の側がZ世代をどうとらえ、どう分析するかということも問題になってきています。</p> <p>このゼミでは、Z世代にとっての政治・社会のリアリティをゼミ生の皆さんから提示してもらうとともに、少し上の世代から見てZ世代がどのように分析されているかについても検討していきます。つまり、「自分たちはどう考えているか」に加えて、「自分たちは（他者から）どう見えているか」を知ることで、みなさんの自己分析につなげてもらえればと考えています。</p> <p>具体的なテーマとして想定しているのは下記のような内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Z世代とソーシャルメディアと選挙・政治 ・消費者・勤労者としてのZ世代 ・少子化の行方とZ世代のリアル <p>本ゼミでは、最終的に個人で関心を持ったテーマについてのプレゼンテーションをしてもらう予定です。出席は基本的に義務ですので、やむを得ず欠席する場合は事前連絡が必要になります。無断欠席が続く場合は、不可／除籍とすることがあります。</p> <p>なお志望理由レポートには、①メールアドレスと学籍番号・学年・氏名、②「最も関心を持っている社会問題」を含めておいてください。</p>
教科書	<p>初回のゼミで紹介しますが、下記のものを想定しています。</p> <p>舟津昌平（2024）『Z世代化する社会：お客様になっていく若者たち』東洋経済新報社。</p> <p>メアリー・ブリントン（2022）『縛られる日本人：人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』中公新書。</p>
参考文献	ゼミで適宜紹介します。
備考	質問・問い合わせ先：kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成一を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。</p>
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社，2019年。
参考文献	<p>薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。</p> <p>佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。</p> <p>など</p>
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	濱村 仁
演習テーマ	国際秩序の危機を考える
演習内容	<p>今世紀初頭には、西側の普遍的価値観が広がり、欧米主導の「リベラルな国際秩序」の下で自由や平和、繁栄が実現するという考えが大きな影響力を持っていました。しかし現在、こうした価値観と秩序は深刻な攻撃にさらされ、瀕死状態に陥っています。これを踏まえて、本演習では、国際政治学の古典であるE・H・カー『危機の二十年』を中心に国際秩序に関する文献を読みます。同書は戦間期に書かれた古い本ですが、19世紀版「リベラルな国際秩序」の崩壊を前に人々が茫然自失としていた時代に、その秩序の矛盾を鋭く分析し、国際政治学を独立した学問として確立した名著です。同書を通じて国際問題を政治学的に考える視点を身につけることは、皆さんが関心を持つ様々なテーマを深く理解するうえでも役立つでしょう。</p> <p>前期は文献講読を行い、後期は各自が選んだテーマに基づいて論文を執筆します。（人数などを考慮して、後期の前半にも文献講読を行う可能性があります。）文献講読では、毎回報告者がレジュメを作成して報告を行い、他の参加者は事前提出した論点を提起して、全員で議論をします。</p> <p>本演習は2026年度から新しく始まる授業です。授業の進め方や懇親企画など、皆さんの意見を取り入れながら柔軟に対応していきたいと思いますので、積極的な提案を歓迎します。</p>
教科書	E・H・カー『危機の二十年』原彬久訳（岩波文庫、2011年）（井上茂の旧訳は避けること）他の文献は開講時に指定します。
参考文献	佐藤史郎・三牧聖子・清水耕介編『E・H・カーを読む』（ナカニシヤ出版、2022年）他の文献は開講時に指定します。
備考	<p>レポートには、氏名、学籍番号、メールアドレスを明記してください。</p> <p>レポートの提出時には、メール件名に「濱村ゼミ志望」と書いてください。</p> <p>書かれている面接日時では都合がつかない場合は、メールでレポートを提出する際にその旨をあらかじめ伝えてください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	山口 順平（旧宮下大志ゼミ）
演習テーマ	「現代日本の政治と民主主義」
演習内容	<p>この演習は、現代の日本政治と民主主義をテーマとして、現代の政治社会を取り巻く諸課題について、具体的な事例を取り挙げながら検討していきます。特に、近年の日本政治における、不安定な政党政治、新興政党の台頭、人口減少と少子高齢化、消滅自治体、コミュニティ再建、排外主義、政治的主張と SNS 戦略といった幅広い課題を取り扱う予定です。</p> <p>こうした日本政治の動向について、演習ではどのように評価すべきか、今後はどうなることが望ましいのかなどを、受講生の皆さんと一緒に考え、議論していきたいと思います。その際には、欧米諸国との比較や理論的考察も併せて行っていくことを考えています。</p> <p>年間の計画として、前期は文献の輪読と演習論文の構想発表、後期は文献の輪読と演習論文作成状況の報告を行う予定です。授業最終週には、演習論文を完成させて提出してもらいます。</p> <p>演習の目標は、文献の輪読や演習論文の作成を通して、政治学における重要な概念や議論、政治学的・社会学的な分析方法を学修し、自らで問題を発見し、論理的に分析し、解決する能力を身につけることです。</p> <p>【選考】授業時の議論に積極的に参加される方を優先します。</p>
教科書	善教将大（2025）『民度』中公新書 田中輝美（2025）『関係人口の時代』中公新書 中井遼（2025）『ナショナリズムとは何か』中公新書 秦正樹（2022）『陰謀論』中公新書
参考文献	適宜紹介します。
備考	<p>単位取得の条件は、輪読での報告と演習論文の完成が必須となります。その他に、全回に出席することが原則となります。無断欠席された場合は、単位認定とはなりませんのでご注意ください。</p> <p>面接の日時に不都合がある場合や、演習の内容等に関する質問・相談は、（yamaguchi.junpei.kokugakuin@gmail.com）にメールを送ってください。</p>